

# サステナビリティ経営の実践に向けた統合報告の利活用 ～ 新春に未来を展望する ～

**日時** 2021年1月29日(金) 19:00～20:30 ※録画の配信はございません

**参加費** 会員:2,000円/一般:3,000円

**登録方法** お申し込み方法はメールにてご案内いたします

2020年のCovid-19のパンデミックは、世界のインベストメントチェーン全体、事業経営そのものに大きな変革を迫りました。ESG投資のメインストリーム化、そして、デジタルガバナンス・コードの策定やDX(デジタルトランスフォーメーション)の加速等のデジタル・テクノロジーの進化は、シェアホルダー資本主義からステークホルダー資本主義への急速なシフトを可能にしました。また、個々の企業のDXがうねりとなり、社会全体のサステナビリティ・トランスフォーメーション(SX)を後押しし、社会の在り方、ゲームルールそのものも変わろうとしています。

開示と対話の在り方も大きく変わりそうです。例えば、9月には世界経営者会議(WEF)が、「Measuring Stakeholder Capitalism」を公表し、IFRS財団が、SSB(サステナビリティ基準審議会)設立構想のコメント募集を開始しました。11月には、国際統合報告評議会(IIRC)とサステナビリティ会計基準審議会(SASB)の統合が公表されました。世界全体でのこうした動きは、企業経営にどのような影響をもたらすのでしょうか？ また、企業経営者はどのように先手を打ち、持続的な価値創造を実現できるのでしょうか？

2021年はサステナビリティ経営もDXも、「語る」時代から、「実践する」時代へ進みそうです。今回のセッションでは、統合報告の利活用、企業グループの境界線を越えたサステナビリティ経営の行方をご一緒に展望・考察します。

※ 当日のライブ配信では、参加者の皆様のご意見やご質問をお受けしながら議論を進めて参ります。

**講師** 久禮 由敬(くれ よしゆき)氏  
PwC あらた有限責任監査法人 パートナー

兵庫県西宮市出身、東京大学経済学部卒業。経営コンサルティング会社を経て、現職。財務諸表監査、内部統制監査、コーポレートガバナンスの強化支援、グローバル内部監査支援、CAAT等によるデータ監査支援、不正調査支援、BCP/BCM高度化支援、IFRS対応支援、統合報告をはじめとするコーポレートレポートに関する調査・助言などに従事。

内部統制最適化(Internal Controls Optimization)、データアシュアランス(Data Assurance Group)、投資家コミュニティエンゲージメント(Investor Community Engagement)、ならびに統合報告(Integrated Reporting)に関するPwCグローバルネットワークの日本窓口を担当。経済産業省「GOVERNANCE INNOVATION: Society5.0の実現に向けた法とアーキテクチャのデザイン」委員、「Society5.0時代のデジタル・ガバナンス検討会」委員。

<https://www.pwc.com/jp/ja/contacts/k/yoshiyuki-kure.html>



**主催**



一般社団法人実践コーポレートガバナンス研究会

ウェブサイト: [www.icgj.org](http://www.icgj.org) | Mail: [seminar@icgj.org](mailto:seminar@icgj.org) | Tel: 03-3539-3208

〒105-0003 東京都港区西新橋 1-18-6 クロスオフィス内幸町 3F